

1 研究テーマ

主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり

2 テーマ設定の理由

広島県ではグローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築として『広島版「学びの変革」アクション・プラン』を策定し、コンピテンシー（知識や技能だけでなく、態度などを含む様々な資質・能力を活用して複雑な課題に対応することができる実践的な能力）の育成を目指した主体的な学びの充実に取り組んでいる。

本校はⅠ～Ⅲ類型の様々な実態の児童生徒が在籍しており、個々の児童生徒の課題も様々である。そのような実態をもつ本校の児童生徒にとっての主体的な学びとは何か、研究を通して児童生徒の「主体的な学び」について捉え直し、「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」について研究を深めていく。また、主体的な学びを通して児童生徒に付けさせたい力は何か、児童生徒の将来像を見据えた取組を行う。

3 研究の経過

平成29年度の研究を通して、各類型における主体的な学びの姿を次のように捉えることとした。

- Ⅰ類型 自ら課題を見付け、学び考え、よりよく課題を解決することができる。
- Ⅱ類型 意欲的に活動に参加する。意見を出し合い、よりよい方法を考えることができる。
- Ⅲ類型 自分からの動きがある。活動の見通しをもっている。自分なりの意思表示がある。

平成29年度の研究の成果を踏まえ、今年度（平成30年度）は、研究の範囲を絞り込み、副題を「教材・教具の工夫を通して」と設定した。

4 研究の方法

（1）日々の授業実践

- ①自立活動アセスメントシート Ver.3（上肢の動きのチェックシートを含む）の活用を推進する。
- ②学習指導略案の作成、活用による日々の授業の実践における「主体的な学び」の取組
- ③「主体的な学び」を促す教材・教具
 - ア 教材・教具シートを作成、活用することで、日々の授業への実践と本校の「主体的な学び」を結び付ける。各学部で研修会を実施し、一人1回学部で発表、交流する。
 - イ 公開授業研究会で展示する。
 - ウ ホームページに掲載する。
- ④外部専門家（PT・OT等）と連携し、児童生徒の実態把握や指導方法についての理解を深める。

（2）研修会

- ①校内全体研修会
 - ア 本年度の研究テーマに沿った内容の研修会を実施する。
 - イ 「主体的な学び」について各学部各類型に分かれて協議を行う。
 - ウ 外部講師、内部講師による、自立活動に特化した研修会を行う。

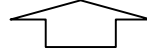
（3）授業研究

- ①校内授業研究会（7月）
 - 公開授業研究会に向けて、外部から指導助言者を招いて校内授業研究会を実施し、各学部で研究協議を行う。
- ②公開授業研究会（9月）
 - ア 小学部、中学部、高等部から各学部一授業、公開授業を行う。
 - イ 外部から指導助言者を招いて、各学部で研究協議会を行う。
 - ウ 外部講師による研究テーマに沿った内容の講演会を実施する。

研究の概要

研究テーマ

主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり
ー教材・教具の工夫を通してー



目指す子ども像

「様々なことに興味・関心をもち、進んで学ぶ児童生徒」
「自分を豊かに表現できる児童生徒」



学校教育目標

基礎的な知識や技能を修得・活用し、様々な問題を主体的に解決する力をみにつけさせるとともに、豊かな人間性とたくましく生きようとする力を育む。

～研究の方法～

《授業研究》

- 「主体的な学び」に関する校内全体研修会の実施
- 「主体的な学び」に関する各学部各類型での協議
- 自立活動に特化した研修会
- 教材・教具 学部研修会

《日々の授業実践》

- 自立活動アセスメントシートVer.3の活用
- 学習指導略案の作成、活用による日々の授業の実践
- 教材・教具の作製、シートの活用・交流
- OPT・OT等との連携

《研修会》

- 校内授業研究会
- 公開授業研究会